



絵：辰己正一

特集

地域生活移行を支援する

パンジーが新体系に移行して、早くも半年が経とうとしています。急激な制度の変化に戸惑いながら始まった今年度ですが、新しい当事者、新しい職員も少しずつ、その場の雰囲気にも馴染んできて、それぞれの役割を持ち、力を発揮し始めています。

さて、グループホームで暮らし始めて3年になるMさんは、グループホームに入居するまで、いろんな所を転々とする生活を送ってきました。入居して

すぐには気持ちが不安定で、いつも自分が大切にされているかを確かめるように、挑発的な態度をとっていましたが、部屋を整え、友達ができ、徐々に生活は落ち着いてきました。そんな彼女が、昨年末に衝撃の告白をしました。

「赤ちゃんができました」

糖尿病の持病もあったことから、私たちは食生活や健康面のこと、今後の生活について、子育てについて……とあらゆる不安を口にしていろんな人に相談し、Mさんとも話し合いました。母体を心配する意見も多くありました。しかしMさんの「産む」という意志は全く揺らぐことはなく、これまでの、かなりぐうたらな生活を一変させ、あんなに嫌だった「規則正しい生活」を楽し

げに送り始めました。Mさんの努力におされる形で、グループホームや日中活動の場でも、病院に付き添い、食事の工夫をしたり、赤ちゃん用品を集めたりと支援をすることとなりました。つきあっていた彼とは結婚の約束もしていましたが、うまく行かず、結局シングルマザーの道を選んだ彼女は、8月末に小さな赤ちゃんと共に病院からグループホームに戻ってきました。

8月27日

今日は、はじめて、病院の外にでれるんだよ。優ちゃんは、夏にうまれたから、夏のあつさにもまけず、優ちゃんのたあいん（退院）の日は、すぐくすずしい日に、たあいんできて、よかったね。

夏は あつい。冬は さびい。秋はすずしい。春は きれい。

（Mさんの日記より）

……これからどんなことが起こるだろうと、考えはじめるのも夜も眠れない！ のですが、大切にされたいと望んではかりいたMさんが、自分が大切にしたいと思える存在に初めて出会い、懸命にミルクをあげオムツを替える姿に、今のところは感動している毎日です。Mさんの子育て日記は、また紙面を借りて報告しようと思います。

（滝川）

地域生活セミナー

知的障害者の 地域生活を考える

～地域移行から見えること～

2007年8月5日

〈主催〉

大阪知的障害者の地域生活を考える実行委員会

長野県にある大型入所施設「知的障害者総合援護施設西駒郷」の4年間の地域移行の取り組みの報告会を、大阪でお願いすることができました。後半では「地域移行から見えた課題」をテーマに各立場の人に問題提起をお願いしました。

障害をもつ人の施設や病院からの地域移行について考えるとともに「どんなに障害が重くても、地域でその人らしくくらす」のが障害を持つ人たちの権利であり、それを支えるのが関わる人たちの役割であるという再確認ができる場になったと思います。

地域生活移行は 相談支援が要

西駒郷地域生活支援センター
山田 優

数字ではなく、
本人が決めること

国は施設利用者の実質7%の人を地域移行すると言っている。全体の流れを歓迎しつつ、「ちょっと待ってよ」と言いたい。出る出ないを決めるのは本人。障害程度区分の問題もある。区分3で50歳に達していない人は出ないといけない。支援者が決めるのはおかしい。本人の意志の確認・生活体験などのプロセスがあるべき。

グループホームを知らない人にどこで生活するかという聞き方や、見たこともない人が説明できない。本人にビデオに見てもらったり、くらししている本人が本人に語ってもらう、家族から家族へと話をしてもらった。職

員にも見学に行ってもらった。そうしたら希望がぐんと増えた。丁寧聞いていくというプロセスをいいかげんにしてはいけない。

支援者に求められること

障害者福祉に関わる職員は、何のために仕事をしているのか。利用者がその人らしく暮らしていける支援者として給料をもらっているのだから、それができないのなら現場から去れと言うことではないか。

余暇の活動で毎週毎週プログラムがあるのはおかしい。普通はそんなにきっちりしていない。土日に何かを用意しなければいけないと思うのは支援者の発想。コンビニをぶらぶらしてもいい。活動を選ぶようにしておけばいいのではないか。

地域移行を支える
システム

ふるさとに帰りたいという人を迎え入れてもらうために、グループホームを立ち上げてくれるところをあちこちまわった。県と西駒郷がグループホームをつく

って、地域生活移行したと違うのではないか。県全体の取組とともに地域の事業所・各市町村・地方事務所は重要な役割を担っている。

地域生活移行は、相談支援が要になる。誰に相談したらいいか。いろんなことがおこったときに、事業所だけでは受け止められない。地域で安心して暮らせるために、総合支援センターを10圏域に整備した。

障害が重い人こそ地域へ

聞き取り困難な人は「いいも悪い」というのは人権侵害。障害が重くても、その人らしい生活をというのには当然。障害の重い人に生活体験を2週間してもらった。言葉ではなく、生活のおだやかな表情でくみとれる。

何より職員にとって大きな成果だった。大集団のなかで暮らすのはよくないのだと、職員にとって再教育になった。障害の重さ、軽さではなく、その人の意向に添った支援を組み立てたところから動き出せばいい。

今、私は結婚を
考えている人がいます。

ザ☆ハート 中山 千秋

養護学校をでてから、施設みたいなところに時々行っていました。その担当の先生に、ボランティアしたいといったら、入所施設を紹介してくれたので、行くことにしました。

入所施設に入ったとき、初めは、めちゃくちゃ緊張してご飯もみんなと一緒に食べられなかった。4人部屋で、初めはおとなしくしていたけど、だんだんいらしてきて、同じ部屋の女の子の人とけんかしていました。

その時から、精神の薬を飲みました。薬を飲んでいても、しんどかったです。

同じ入所施設の男性とつきあって、外で会って隠れてデートしていました。色々あって、先生たちと別れなさいって言われて、別れました。自由な恋愛は厳しかったです。

3年後に、入所施設をやめま

した。でも、作業所は、厳しかったので半年でやめました。それから、ずっと家にいました。

30歳になって、職安で、紹介してくれたのがパンジーでした。当事者の人が、優しく、仕事をちゃんと教えてくれたのを覚えています。今まで行っていたところは、全然違いました。けんかもしたし、色々あったけど、パンジーが好きです。泣いたり、悩んだり、怒ったり、笑ったりできます。

今、私は結婚を考えている人がいます。野村さんです。そして私はそれができると思っています。



地域移行 ではなく 地域生活 へ移行

大阪府立大学
三田優子

た人もいた。

キーワード②【引越】

「今度僕はどこに行くのでしょうか」と聞かれた。どうしてと聞くと、「職員に言われて引っ越しが決まった」と言う。丁寧に説明していても本人には伝わっていないことがある。「引っ越しが多くて道が覚えられない」という人もいた。「私たちが引っ越すのは支援者の都合でしょ」と言われたときには返す言葉がなかった

キーワード③【忙しくなった】

「これです」と言ってみせられたのが小遣い帳。小遣い帳の話が出なかったホームはないくらい。毎日小遣い帳をつける時間がある。「三

キーワード①【鍵】

「私の部屋には鍵がある。この鍵は内側からかかるんだよ」と言われた。「入所施設にいた時は外からかけられていた。外からの鍵と内からの鍵は違う」。部屋の鍵をかけることはほとんどないけれど、鍵をつけてくれたことがうれしかったという。「自分は鍵を持っている。お母さんも鍵を持っている」とうれしそうに話してくれ



田さんの小遣い帳は何冊目」と聞かれて「つけてない」と答えると、「それでは自立できない。西駒に返されるよ」。

小遣い帳をつけることで何人かは買いたい物がめんどくさくなったという。知的障害者の地域での暮らしは品行方正にしなければと押し付けられていると感じた。掃除当番も綿密なシフトが組まれていて読みこなせないところもあった。

「大家さんのはなしをきくこと」が忙しくなったという人がいた。70代の大家さんがGHの彼女の所に嫁の愚痴を言いに来るのが日課になっている。大家さんは「彼女が来てから町がよくなった。どの人にも気持ちよく挨拶をするし、本当に聞き上手。何であんな所に入れてんだ」と言う。支援者が思っている以上に当事者は地域でネットワークを作る力がある。地域には応援団ができると思えばいい。

課題・整理すべきこと

- ① 障害者本人による住環境チェックの重要性
- 住環境は非常に大きい。施設と比べてどうかという問題ではなく、私は自分が

家賃を払ってここに住みたいかを考える。たとえば欄間の隣の音が聞こえる。「おならが気安くできない。隣の人のあくびの声まで聞こえる。三田さんも大きな声で質問しないで」と言われたことがあった。

② 段階的移行の再検証

人によっては必要かもしれないが、段階的な移行は本人にとって時間のロスだと思える場合が多い。自活訓練所からGHに移ったら、お風呂やコンロや掃除機など形が全く違う。もう一回全てを覚えなさいといけな

③ 地域移行ではなく地域生活移行へ

地域生活は誰でも好きな所に住めるのだというスタンスをとることが大切。「私の権利」が何かを見つけて手伝いをするのが私たちの仕事だと思ふ。その人の人生に関わるのが地域移行だとも思ふ。本人から「何で入所施設に入っていたのだろう」と

いう疑問が出されたとき、私は答えられなかった。ずっと施設に入ればなしだったことをきちんと整理しなければ同じことが起きるのではないかと思ふ。いつか答えられないといけないという思いがあり、権利擁護のしぐみを作らなければ、地域移行は完全なものにならないと思う。地域移行は出ることが目標ではなく出てからが始まりなのだ。



それでも戻らない ザ☆ハート 野村 信久

4年前に、入所施設を出てグループホームに入りました。初めは、すごく緊張しました。色々なことに、おどろきました。買い物に自由に行きました。夕方グループホームに帰っ

てから、好きな時間に好きな物を買ってきいていいと言われました。今は思わないけど、自由に買い物に行けることに、とてもおどろきました。

お風呂の時間や寝る時間も自由でした。初めは、わからなかったもので、介護者に聞いていました。

ぼくは入所施設に戻りたくないです。いろいろと、楽しいことがあったけど、買い物に行くときや、散歩や、旅行の時しか外に出られなかった。入所施設の外に自由に出られなかった。

今ぼくは、おしゃれがとっても好きです。入所施設では、服を買って行っても、ジャージを買って行きました。でも今は、色々な服を買っています。

また、グループホームでは、お酒もタバコも自由です。夜に食べたりしていて、入所施設にいたときより太ったので、今は少し気をつけています。

ぼくは、これから、好きな人と結婚して、二人で住んでみたいです。仕事とか、お金とか、家とか、心配になることはたくさんあります。でも、入所施設からでて、グループホームで住めたから、できていると思っています。

パンジーを変える特別チーム「さわやか」発足



これまでに6回の会議と、合宿をしました。

そして、7月30日から3日間かけて、

創思苑理事長をはじめ、各施設、部門のトップにインタビューをしました。

●目的

- 1 当事者がいきいきと働ける
パンジーにする。
- 2 当事者が中心になれるパンジーにする。
- 3 当事者が、自分たちで考え、
決めていける、パンジーにする。

●委嘱状

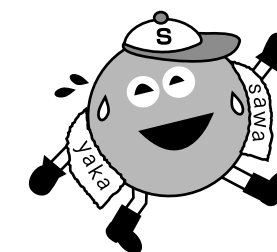
メンバーにはひとりずつ
委嘱状が渡されました。

●活動日

毎月曜日の午後

●メンバー

創思苑理事……生田進
創思苑評議委員……梅原義教
パンジー議長……西村実
パンジーⅡ議長……山田浩
ザ☆ハート役員……中多百合子
中山千秋 宮田隆志



さわやかチームは何のために
作りましたか？

西村 パンジーを変えるために、
パンジーを当事者の来やすい
明るいパンジーにしたいと思う。
梅原 僕は、当事者が考えて
欲しいなと思う。職員は、
介護者と思っている。当事者
ががんばったら、職員がつい
てくと思う。当事者がわか
らんかったら職員が考える。
そうすれば、パンジーがもっ
と変わると思う。
生田 おうてる。梅原君が言
うてるのは、まず当事者が考
えて、職員がついてくるって
事やろ？
梅原 今は、職員が言うたら、
当事者がついていてる。僕は、
当事者が言うたらいと思っ
てる。当事者が職員を動かす。
生田 スウェーデンのグルン
デンみたいやな。当事者が、
職員を動かしてる。似たよう
なもんやな。
中山 その通り。
中多 困るとときは、助け
てもらう。今は、配達に行く

メンバーを決めてるのは、職員。
晩に考える。なんでそんな
ことになった？ 全部当事者
で決めたい。職員が勝手に決
めたらあかん。職員会議をし
てるときに、決められてる。
梅原 僕は誰が配達に行くのか、
初めは決めてほしい。当事者
はどうやって考えればいいか、
いつもわからんから。メンバー
には決まっている人もいる。
行く曜日を変えたらあかん人
もいてる。でも、時間が経つ
たら、考えてみないと思う。

職員組織図から目指すのはこれ

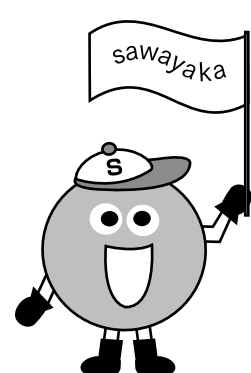
山田 将来は理事長。
中多 パンジーⅡの施設長。
生田 お金をことをする事務長。
中山 わくわくのチーフ。
宮田 グループホームのチーフ。
梅原 俺、役職の無い職員で
いい。
一同 えー！？
梅原 チーフに行きたいけど、
もうちょっと。
西村 僕も、理事長かな？

かチームはどう違うのか」と
いう質問は、「鋭い質問がきた
な」と思った。
山田 「なんのためですか？」っ
てたくさん聞かれた。
中山 「さわやかチームの報告
はしてもらえますか？」
とも言われた。

これからについて

梅原 会える会を始めた時より、
今の方が不安。会える会を始
めた6年前より、いっぱい知っ
てるからなおさら不安が多い。
生田 会える会では、最初は、
新しい事務所の場所のこと、ハー
トをどこに作るかと考えて
決めた。今のさわやかチーム
のほうが難しい。さわやかチー
ムのほうが、頭がいる。

山田 さわやかチームはもの
すごく難しいこともやる。やっ
ていくのに、もうちょっと勉
強がしたい。他の職員にも聞
きたい。
宮田 さわやかチームのフア
イルに資料が増えてきてる。
中多 でも、さわやかチーム



理事長の仕事って？

山田 将来は、理事長の上に
上がって、仕事をしたい。
中多 理事長の林さんは忙し
いで。

梅原 俺は無理。あっちこっ
ちに行ってる。パンジーⅡと
か、ハートいたり、パンジー
いたり、グループホームに行っ
てる。グループホームも関係
ある。ハートも関係ある。

生田 パンジー全体は上から
動かさないと、下が動かない。



林さんが一番、長い。そして、
5年10年の職員が動いている。

理事長、施設長、チーフに
インタビューをして仕事の内容を
聞きました。どうでしたか？

梅原 わくわくのチーフは全
部任されていて、忙しそうや
なと思った。ショートステイも
ガイドヘルパーのことも、な
んかあったら、全部チーフやっ
た。大変やなと思った。
西村 お金のことや、いろん
なことを聞いた。それぞれ、チー
フはみんなをまとめる。グルー
プホームは、ほとんどがむず
かしそうで、介護者の急なや
りくりがしんどそう。

山田 グループホームのこと
を聞けてよかった。介護者が
ぐるぐる変わると言うてた。
生田 いろいろ頭に入れない
といけないと思った。
中多 グループホームを新し
く建てると聞いて、新しいグルー
プホームの職員がすぐやめな
いかと心配した。
中山 わくわくの話は、すら
すらって頭に入ってきた。な

生田 「本当にやれんのか？」「よっ
ぼどしんどい仕事ですか？」っ
て言われた。「やらなあかん」っ
て。「やる」って言うたから。「い
いなり。わしも入りたい」っ
て言う人もいた。「誰でもなれ
ません。ケツ割ったらあかん」っ
て説明した。

宮田 まず、わからないと
きは僕らに聞いてくださいっ
て言うた。「かえる会とさわや
か



6月26日～27日
ワークショップをしました
in 能勢



前回のパンジーだよりを見て驚いた。林さん、滝川さんからの身に余る送別の言葉が載っていて、私はと言えば、のんきにも「加齢」の続きを書いていたのだ。本来ならば、私が先に退職の報告をしなければならぬのにと大いに恐縮してしまった。これは原稿執筆から、パンジーだより発行までの時間差がもたらしたチグハグということでお許しください。

そこで、今回改めてご挨拶とお礼を申し上げます。1996年4月「かかわりの難しい人」について一緒に考えてほしいということでパンジーに招かれて以来、11年が過ぎました。パンジーだよりデビューは2か月遅れのNO17からで、こんなに長く続けて書くことになるとは本当に自分でもびっくりです。

このことは読者や編集者の寛容さのお蔭もありますが、何より私のパンジー生活が充実したものだったということ。11年といっても週1日のおつき合いです。私には多くの感動と納得、

だいじょうぶ感 —— おわりにかえて

パンジー・
スーパードバイザー
中新井 滯子

あるいは疑問を得ました。それを自分だけのものにしておきたくなくて、ミーティングでスタッフ達と話すだけではもったいなくて、その結果48回もパンジーだよりに登場することになったのです。でも紙面の都合もあり、またプライバシーへの配慮もあって、いやいやの最も大きな原因は私の文章力の乏しきで、十分伝わっていないかったのでは、私のひとりよがりだったのではと心配になってきました。

私のパンジー生活は幸せでしたが、メンバーやスタッフの皆さんにとってはどうだったのだろうか、リタイアブルーとでも言いたい気分です。

こういう時は、前回、前々回と急にパンジーだよりで有名になった中新井邦夫が助けてくれます。27年前、当時東大阪市療育センター長であった彼が職員に語った言葉に思いをはせながら、気をとりなおして最後の話をしたいと思います。

「支援者は当事者のニーズに対して、どういう支援をしたらよいか考えます。しかしまず必要なのは「security」だと故センター長は言いました。これは当事者が支援者に対して感じる「安心感」です。次に要るのは「responsibility」これはどんな困難な状況にあっても支援者は逃げない、投げ出さないで責任をもつことです。その上で「response」かかわりが出てくるのです。(キーワードが英語なのはオーストラリアパースの施設長の言葉を引用しているため)

「安心感」については、私はパンジーだよりは何度も書きました。「安心感」を体得するには、自分が安心感を持っている人と身近に接することです。「責任感」については、支援者の日々のかかわりだけでなく、施設がもつ揺るがない理念と時間的空間的に拡がる支援体制にも通じます。その上で行われる「支援」にはマニュアルがありません。長い時間を要することも多いのです。支援者の皆さんには希望を持って一度は真正面から、お互い疲れたら横に並んでかかわり続けてほしいと願っ

ています。

パンジーとの11年のつきあいの中で、私は新しい日本語のキーワードを見つけました。それは「だいじょうぶ感」です。当事者が周りの人だけでなく今起きている状況に対しても感じる「だいじょうぶ感」です。私は多くのメンバーが支援者と共に、そしてひとりで困難な状況に対応できる「だいじょうぶ力」を身につけていく様子を立ち会うことが出来ました。「だいじょうぶ感」が「だいじょうぶ力」になるまでの時間にも個人差があります。パンジーだよりNO34で、「彼女と話が出来た日を気長に待ち続けたい」と願っていたSさんと交した、11年の緘黙がまるで何もなかったかのような生き生きとした会話は、私にとって最後の何よりうれしい贈り物でした。楽しい思い出と大きな喜びをいっぱいくれたメンバーの皆さんに感謝しながら終わりにしたいと思います。

本当にありがとうございます。

気になるエッセイ

成長の実

創思苑理事長
林淑美

見学者によく尋ねられる言葉があります。「どうして、パンジーはみんなが楽しそうなのですか？」です。尋ねられる度にうれしくなります。しかしこの数年、その言葉が微妙に居心地の悪い言葉に感じる時がありました。たくさん種のまいたし成長はしているけれど、なかなか実は実らない。どうすれば実るのか方法を考えあぐねていたという表現が、この間の状況を最も言い表していると思います。そのような状況が、おもむろに動き始めました。

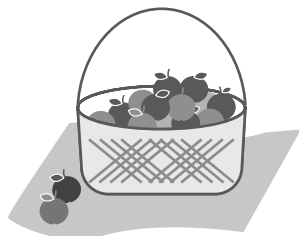


パンジーを変える特別チーム「さわやか」が発足しました。2001年、当事者が理事長をしているスウェーデンのグルンデン協会を見学に行き、帰国後、「パンジーもグルンデン協会のようにしたい」と話し合いました。当事者が理事になったり、職員面接をするなど、組織を少しは改善してきましたが、大きくは変わっていませんでした。今回、立教大の河東田先生の協力を得ながら、当事者が中心になり自分たちで考え決めていけるようなパンジーにするために、2年間、集中して取り組むことになりました。



最初の頃の会議で、「当事者は、支援者よりもよくメンバーの事をわかっています」の発言に、当事者全員が大きくうなずいているのを見て、そのような場面に居合わせることができたのに感謝しました。しかし、今後のことを考えると、「うまくいくのだろうか？」と不安がよぎることがあります。この不安については、これまで、誰にも話したことがありませんでした。ところが、今号のパンジーだよりで、さわやかチームの人たちが「これからについて」話しているのを目にしました。そこには、私と同じ、期待と不安が語られていました。「なあんだ。みんな、同じだったんや」とわかったら、とても気が楽になりました。みんな、励まし合いながら、

目標に向かって行動しているかと思っています。冒頭に、「なかなか実は実らない。どうすれば実るのか方法を考えあぐねていた」と書きました。しかし、私が、小さいころばかりを見ていて気づかなかっただけで、少し立つ位置を変えてみると、たくさんの実が実っているのに気づきました。今後も、たくさんの実について、みなさんにお伝えしていきたいと思っています。



風 パンジーからの

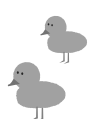
新しく生まれ変わった「はっしんきちザ☆ハート」

この4月に荒本から現在の花園の地（「わくわく」事務所と併設）に移転し、装

いも新たにリニューアルした「はっしんきち ザ☆ハート」。新しいメンバーも加わり、みんな元気いっぱい頑張っています。静かな住宅地の中にある建物は、もともとは銭湯でした。ですから入り口は二つ、玄関には鍵のついた下駄箱があり、当事者・職員が使用するロッカーも銭湯のもののままです。天井は高く、そこでは大きなファンが静かに回っています。実は目立たないところに番台や洗いおけ（！）も残されていたりするのです。

新しく生まれ変わった「はっしんきち ザ☆ハート」は、そんな古きよき時代の風情を残しながら、地域の中であたりまえに生活すること、そしてより積極的な社会参加をめざして日々の活動をおこなっています。「生活介護」と「就労移行支援」という二つの事業形態になるわけですが、それはさておき、実際のところは「充実した日中を過ごす場であり、就労をめざす人たちが力をつけるべく活動する場である」と言ったほうがわかりやすいでしょう。

（月井）



ゴーヤカレー

ビタミンCが豊富なゴーヤーと、パイナップルの入ったカレー。コクのあるルーの中にゴーヤーやジャガイモなどの野菜が入った、うまみのある味わい特徴です。

.....350円



秋ギフト



※お電話・FAXでお申し込み下さい。
宅急便でお送りする場合の送料はお客様負担になりますのでご了承下さい。

島唐辛子

沖縄の唐辛子を泡盛につけ込んだもの。沖縄そばの調味料ですが、タバスコのようにパスタやピザにも合いますよ。

.....500円



島のらー油

南国の太陽をいっぱい浴びた、石垣島の唐辛子が原料。餃子はもちろん、野菜炒めや冷や奴もよく合います。よく振って具ごと召し上がれ。

.....650円



パウンドケーキとクッキーの詰め合わせ



ミックスクッキー
ごま・ココア・ピーナッツ・レーズンの4つの味。



パウンドケーキ
プレーン・フルーツ・紅茶の3種類があります。



ころころクッキー
たまごを使っていない、くるみたっぷりのクッキー

●3種類のセットから、お選びください。

- Aセット・プレーンパウンドと2種類のクッキー.....1200円
- Bセット・フルーツパウンドと2種類のクッキー.....1300円
- Cセット・紅茶パウンドと2種類のクッキー.....1300円

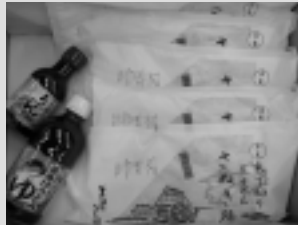
うどん詰め合わせ



釜揚げセット 1,500円

さわやかな美味しさと食感を楽しむ本場讃岐うどん。

讃岐うどん 半生 (300g) 3袋
釜揚げうどんつゆストレート (340ml) 1本



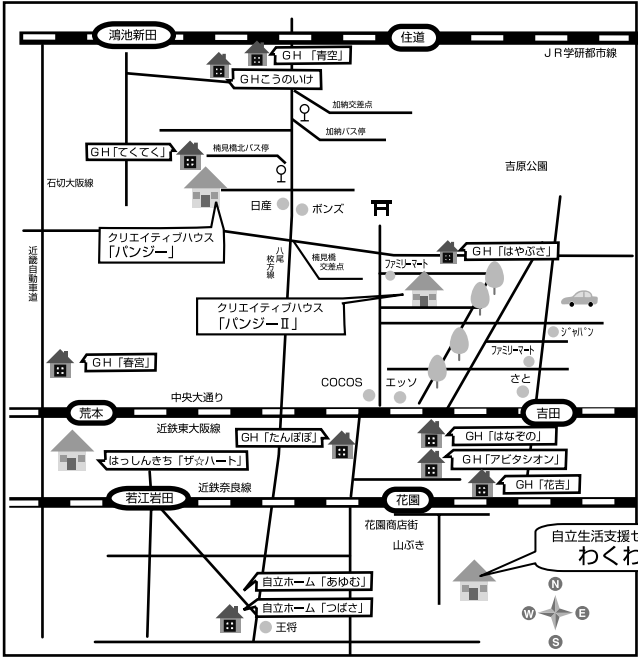
まるごと讃岐うどんセット 2,500円

本場の味をまるごと楽しめる高級うどんセットです。

讃岐うどん 半生 (300g) 5袋
釜揚げうどんつゆストレート (340ml) 1本
生醤油うどんつゆストレート (150ml) 1本

●ご注文・お問い合わせ

クリエイティブハウスパンジー
〒578-0973 東大阪市東鴻池町2-4-8
Tel 072-963-8837 Fax 072-963-8825



《お問い合わせ》

- クリエイティブハウス「パンジー」
東大阪市東鴻池町2丁目4-8
Tel 072-963-8818 Fax 072-963-8825
- クリエイティブハウス「パンジーII」
東大阪市中新開2-11-20
Tel 072-960-3610 Fax 072-960-3613
- 自立生活支援センター「わくわく」
東大阪市花園東町1丁目17-30
Tel 072-968-1556 Fax 072-968-1557
- はっしんきち ザ☆ハート
東大阪市荒本2049-4-101
Tel 06-6789-6637 Fax 06-6789-6649
- ホームページ <http://soshien-com/>

パンジーでは、
後援会員を募集しています

賛助会員 1口 1カ月 500円
本会員 1口 1カ月 1,000円
特別会員 1口 1カ月 5,000円
郵便振替番号 00950-1-300551
クリエイティブハウス「パンジー」

書き損じハガキ、
(未使用)切手を
送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。
ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

〈後援会費〉
岡本多恵代

〈カンパ・寄付〉
なし

〈書き損じはがきをお送りいただいた方〉
菊池明美 田中祐子 井居肇 宮田隆志

(敬称を略させていただきます)

みんなげんき

No.8
さいわい徹◎

芸術作品

